

令和元年度 第3回日進市男女平等推進審議会議事録

日 時 令和元年10月11日(金) 午後6時30分～8時
 場 所 日進市役所 南庁舎2階 第5会議室
 出席委員 可児康則、吉田真砂、山本眞理子、山本健一、安形典子、水谷有志、
 原眞理子、菅沼成明、下野房子(敬称略)
 欠席委員 中島美幸、福田有輝、
 事務局 岡部功(市民協働課長)、長原詠子(同課課長補佐)
 武田裕子(同課共生共同係主査)、裏見聡太郎(同係主任)
 傍聴の可否 一部可
 傍聴の有無 有(5名)
 協議事項等

- (1) 日進市総合計画(男女平等推進)について
- (2) 男女共同参画あるある川柳・標語の入賞作品の選考について
- (3) その他

議事及び発言内容

発言者	内 容
	開会
事務局	開会を宣す
	委員委嘱
市長	あいさつ
委員	自己紹介
	会長・副会長の選任 会長に中島美幸委員、副会長に可児康則委員が選任される。
副会長	あいさつ
市長	諮問
	市長、公務のため退席
事務局	以降の議事の取り回しを副会長に依頼
副会長	傍聴者の確認
事務局	傍聴の申し出有り
	傍聴者入場
副会長	傍聴者への必要事項の伝達
副会長	次第に沿って進行
	(1) 日進市総合計画(男女平等推進)について
事務局	第3次男女平等推進プラン策定と並行して、総合計画策定中。 男女平等推進は、第5次総合計画－基本目標6 市民自治力と行政経営力の向上－第3節の1に位置付け。 平成23年度計画策定当初当時から現在までの間の、男女平等・共同参画

	<p>の現状と課題を中心にお聞かせいただきたい。 今回の内容は、今後の参考とする。</p>
事務局	<p>前回の審議会より 第6次総合計画策定市民ワーキンググループ内男女平等に対する意見 「3-1 男女平等推進」については特に意見がなかった。</p> <p>その他分野での言及は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者」地域サロン等に男性が多く参加するとよい ・「子育て」安心して仕事と子育ての両立ができるよう放課後児童対策を充実してほしい ・「母子保健」子どもを望む夫婦への支援はないのか など
副会長	<p>現状と課題について、委員に意見を求める。</p>
委員	<p>地域・PTAでの女性の重要ポスト就任、教育の場について。 毎回話していることではあるが、地域での女性の活躍が進まない現状があると思う。日進市の歴史的側面もあると思うが、地区の会長・副会長が出ないことが、市民の意識が変わらないことに繋がっていると思う。集まりの場があったとしても、トップが男性だけでは、そこを中心に動いていく。 教育の場、身近なところだとPTAのトップが男性というのは変わらない。 市内小学校に女性の校長はいるが、中学校にはいない。混合名簿についても、小学校と中学校で差があるのではないかと。中学校の卒業式では、男子生徒が先に呼ばれている状況を見た。 意識の変化は徐々に進むが、形を大きく変えていくことも大事。</p>
委員	<p>現在の日進市内中学校長に女性はいないが、全国的に見ると女性校長もいる。混合名簿についても、教育現場では今は昔の流れについて、さほどこだわっていないと捉えている。</p>
委員	<p>女性校長について、愛知県下では女性校長が増えてきている。「女性」と意識することがいけないと思うくらい。 児童・生徒名簿について、日進市は混合だったかと思う。</p>
委員	<p>PTA会長についても、春日井市などは女性会長もいる。ただ、母親代表というものが今はあるので、男性PTA会長となっているのかと思う。全国組織との兼ね合いなどもあるので、難しいところかもしれない。</p>
委員	<p>母親代表という名称は、その範囲のものなのか。</p>
委員	<p>愛知県のPTA連絡協議会には母親代表という記載がある。</p>
副会長	<p>地域・学校のことが上がったが、他には何かあるか。</p>
委員	<p>父親の子育て支援に関わる人が多いが、若い父親ともう少し上の世代の男性の意識はかなりギャップがあると感じる。若い人は家事・育児に参画することは抵抗がないが、仕事内容や会社の風土などでなかなか思うように参画できないというギャップがある。そういったギャップを解消していくにはどうするといったか考えると、教育の効果はとても大きい。家庭科が男女共修</p>

	<p>になった世代から順番に意識が変わりつつ、イクメンという言葉も出てきて、社会が変わってきた。</p> <p>あいち国際女性映画祭で観客賞とグランプリを受賞した作品が男性の育児休業を取得した人を描いた短編映画であった。育児休業を取得する男性の葛藤や、パパに任せて仕事に出て行く女性の葛藤などが上手く40分に凝縮されていた。中学生でも分かる内容で、これから社会に出て行く人たちが観ると、感覚として残りやすいのではないかと。日進市は固定的役割分業意識が高めであったかと思うので、教育現場などでも若い人たちに分かりやすいものを活用して、それぞれの葛藤も含めて啓発していくといい。</p>
委員	家庭科が男女ともに必修になったのは、ずいぶん前では。
委員	1993年～1994年で中学・高校と家庭科が必修になった。20年以上前。第一世代が30代後半。効果があると感じる。
副会長	意識について、気になること。最近立て続けに虐待死の事件が起きている。マスコミ報道にしても、世間の批判にしても、本来虐待した父親に向かなければならないものが、なぜか「母親が守れなかった」と責められる。DV事案をみても、そんなに簡単にできるものではない。子どもを守るのは母親の役目みたいに、そこをバッシングしていく。やりきれない。そういう意味でも、意識が変わっていくことはとても重要だと思う。
委員	言葉の使い方について。女性〇〇といったように、必要以上に強調しなくなってきた。看護婦から看護師に変わり、はじめは違和感があったが、「これが当たり前」とされて刷り込まれていくと、おのずから言葉が発せられるようになる。相手にとって不快でない言葉は何かと考え、審議会でも議論したような好ましい言葉を使うとコミュニケーションの潤滑油になる。男性を先に呼ぶことが慣例ならば女性を先に呼ぶとか、50音順も逆から呼ぶとか、慣例にとらわれずトライしていけばいいのではないかと思う。
委員	混合名簿を進める取り組みがかなり以前にされていたかと思う。男女平等教育を授業でやるとなると大変だが、名簿を変えることは簡単なこと。普段の生活では混合名簿、必要に応じて男女別名簿を使う。ここで議論するよりは、行政が一斉に動くくらいのをやらなくては、意味がないと思う。子どもが疑問に思うだろうが、名簿が変わることを説明すれば解消され、普通のことだと受け止める。
事務局	混合名簿はあると聞いている。使用実態について、今は詳細がわからない。
委員	必要に応じて男女別は仕方がないが、普段の生活では差支えがないと思うので、行政で動きを作っていただきたい。
委員	名簿は全員が確認できればことが足りるため、男女の順番にことさらこだわる必要はあるのか。もっと大事なことがあるように思う。
委員	ひとつの方法として、混合名簿があると思う。子どもが「なぜ？」と思うようなところから、普段の教育として入っていくのがいいと思う。

委員	自分の子どもの頃でも、なぜ男子が先なのかおかしいと思っていた。当時は男尊女卑の考えがまだあった中、実際、毎日男子が先とされていると、それが植えつけられてしまう。同じ教育を受けたであろう同年代でもずいぶんと考えに差がある。疑問に思わず植えつけられたものだと思う。
委員	実際には、「男だから」「女だから」を気にしている子どもは少ないかと思う。生徒会長にしても、女性・男性関係なく就いている。私たちが思うほど子どもは気にしていないかもしれない。しかし、それは家庭科や混合名簿など、様々なことを経て、今ができあがっていると思う。
委員	これだけ長い年月議論してきたのに、なぜ変わらないのか疑問。
委員	名簿については、運用上男女別の場合がある。体育や家庭科・技術科で、男女を分けていた時代もあるが、今はそれもない。学習指導要領も性別に関係なく行うよう変わってきている。子どもたちには、女子だから男子だからという強い意識はないと感じる。
委員	第5次総合計画内の表記について。将来の姿が、「男女が～」となっているが、「だれもが」という表現でもいいと思う。性別含めて様々な人がいるので、やわらかめの表現が今後はあってもいいのではないか。
副会長	各地にある弁護士会では両性の平等に関する委員会の「両性」という表現自体が、LGBTなど性の多様性をいわれている時代に違和感があるということで、「性の平等」といった言葉が変わってきている。 第5次総合計画が10年近く前のもので、今回は改訂のための議論なので、貴重なご意見なので、意識していただきたい。
委員	私は、男女別名簿で育ったが、子どもは男女混合。今の時代は、性別は関係ないのだと気づかされた。先生も「くん・ちゃん」ではなく「さん」と呼ぶ。先生も意識しているのだと感じた。
委員	別の自治体の小学校は混合、中学校は男女別の名簿。同じ学区でも違うというのは、教育も考え方が変わってきているし、社会の変化の途中なのかと感じた。 看護師が多い企業でも、男性が増えてきている。夜勤を選択しない男性看護師もいる。理由を聞いてみると、子育てなど。例えば、看護師同士の夫婦でも2人とも夜勤を選択することもあるし、選択しないこともある。それぞれが選べるようになってきた。だれもが選べる専門職になっていくということはいいいことだと思う。選択し、それをいいやすい雰囲気を作っている。人生の各時期で目指していきたいものが目指していけるといいと思う。
委員	日進市内の高齢者が集まるサロンを見せていただく機会があった。とても充実していると感じた。65歳以上の希望される方が参加、送迎もある。食事でも自費ではあるが、準備してもらえ。民生委員か、男性の方もいきいきと支援をしていた。しかし、参加者となると女性がほとんど。男性がもっと参加してもいいはずだが、理由はなんだろうか。 性別関わりなく、いきいきと健康でそういったところに参加していける社会

	につながると思います。
委員	以前に比べて、男性の参加者も少し増えてきていると思う。男性は仕事を中心にしてきた人が多いので、退職後、地域にソフトランディングすることが難しいのでは。地域にどうぞと言われても、ひとりだけでは難しい。働き方の結果が出ているのだと思うが、方法はあると思う。開かれたコミュニティであるよう、開拓する必要もあると思う。
委員	早期の教育の場面と退職後の場面へのアプローチが課題。
委員	男性だけの料理教室や運動サークルなどについてよく聞く。男性だけでやりたいのか、そういう場ではすごくいきいきしている。声をかけると集まりに参加するよう。自分からはなかなか家から出てこないのかもしれないが、誘われて、そこにはまると続く。男女混合となると、年齢が高くなると女性の方が強いのか、男性がどんどんやめていってしまうことがある。男性だけでやっているグループは続いているように思う。
委員	転勤が多い人だとほとんど自宅で生活できない。慣れて順番にいろいろなところに順応していくのだと思う。平均的にみて女性の寿命が長いので、サロンに女性が多いのも仕方がないかと思う部分もある。
副会長	男性のサロン参加者が少しずつ増えてきているということですから、変わっていくのでしょう。
委員	何歳になっても、マスコミなどからも教育はされていく。男性も、これではいけないと思い、生き方を変えてきている部分もあると思う。
	議題1 終了
	休憩 傍聴者退席
	(2) 男女共同参画あるある川柳・標語の入賞作品の選考について
	審査し、小学校の部・中学校の部より最優秀賞・優秀賞・佳作を選定
	<小学校の部> 最優秀賞：ありのまま 自分の心 ときはなて 優秀賞：思いだす ビーフシチューは 祖父の味 佳作：男子女子 イメージだけで きめないで 佳作：自分らしく 生きれば心が 楽になる
	<中学校の部> 最優秀賞：向き合って 性別ではなく 個性の光 優秀賞：女性医師 わざわざ「女性」と なぜ呼ぶの？ 佳作：自分らしく 私の未来は 私が決める 佳作：性別で 役割決めは ナンセンス
	(3) その他 第3次日進市男女平等推進プラン策定に係る進捗報告
事務局	配布資料に沿って説明
	閉会 (20:00)